

児童発達支援事業所における自己評価結果

公表:令和3年6月27日

事業所名 リンク大和東教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		マンツーマン並びに療育時間の入替をしている。体を動かす際はフロア(広いスペース)を使用するなど部屋を使い分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	4			運営状況に合わせて職員配置を厚くする必要がある。また、他の職員が入っても対応できるようゆとりがある時に、担当外の職員が利用者と関わる。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		2	お子様の特性に合わせて、活動部屋のレイアウトや椅子・机の位置を職員と話し合い、調整している。 トイレ:表示やイラストなどで分かりやすく表示。触ると危険なところもマークで示している。	エレベーター・トイレの狭さがあり、職員が介助する際には検討が必要。不測の事態に備え、手の届く箇所に備品を置き、対応していく。 エレベーター開閉:延長ボタン設置、スタッフの注意、 トイレ前段差:色テープ スリッパ移動:すのこを敷くなど検討。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		朝の清掃・定期の巡回を実施し、乱れている箇所を修正している。 療育ごとに喚起や清掃など行い、気温・湿度設定などもこまめに行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		2	利用者対応は、朝礼・終礼・個別支援計画書会議で、計画・実施・結果・検討を行っている。毎月面談が実施され、各職員が意見を伝える機会設けられている。	月1回の会議は実施しているものの、全体業務改善についての目標設定・振り返りが不十分である。各職員に業務改善を提案し、検討する場を設けていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		評価表は前年度より実施。療育毎に保護者からの意向を伺っている。保護者様のご要望など職員間で共有し、その都度対策を立てている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	3	実施予定。	昨年開始した事業所の為、今年度から自己評価結果を公表する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		第三者評価は未実施のため、今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		外部研修を全職員が実施。OJT並びに定例会議でセラピスト作成の研修を受けている。研修に対し、積極的な参加を奨励されている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		相談支援事業所の利用計画の確認。保護者様のニーズ、セラピストと療育職員によるご利用者様の評価を実施している。アセスメントや毎回の療育(フィードバック含む)をもとに、各職員で意見を出し合い、計画書を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		専用ソフトを使用している。	太田ステージや遠城寺式なども、今後活用していく予定。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		総合的な支援目標が「家族支援」「地域支援」に沿った目標にし、総合支援目標が果たされるように、各領域で具体的支援内容を設定している。 お子様を取り巻く環境(ご家庭・園での生活)を考慮して支援内容を設定している。	計画に沿って実施できているかを、定期的にセラピスト・児童発達支援管理責任者でチェックする体制を整えていく。今後、家庭支援・地域支援にも更に力を入れて取り組んでいく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		保護者様・他職員も入りながら確認する体制ができている。常に計画書を見直し、計画に沿った支援を心がけている。職員間で支援についてこまめに話し合っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		個別支援計画書会議で活動内容を含め、話し合っている。会議にて、各職員の意見を尊重し、話し合い、立案に反映させている。	個別療育の為、担当職員以外の職員が入る時の細やかな引継ぎを進めていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		机上課題・運動課題の担当を振り分けている。常にプログラムを見直し、修正・改善を心がけている。	運動・机上課題を行う目的を保護者に分かりやすく説明していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	3	1		個別療育に特化している為、集団活動はしていないが、園・学校での様子を聴き取り、集団で適応できる事を提案していく。 療育は個別対応だが、計画書では常に集団活動も想定して作成している。今後、療育の中で集団プログラムも提供していきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		療育・清掃担当者を決めて進めている。 朝礼にて、各職員が報告・確認し合っている。	非常勤：児発管と自分の予定の報告・確認は行っているが、他職員の予定を詳しくは分からない。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		欠席者も共有できるように、Web上でのソフトを利用し記録もしている。 終礼にて、振り返りや次の日の予定など共有している。	最後ではなく、早めに時間を設け、時間のゆとりをもって情報を確認できたら良い。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		療育担当者が記入し、児童発達支援管理責任者・セラピストが支援内容を確認している。 各職員が責任をもって記録を行い、児発管がチェックしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		セラピストによるモニタリングを実施。変化点など担当者・児発管と話し合っている。支援計画内容の見直しの必要性を適宜検討している。	見直しの必要性が生じた時、保護者様にも分かりやすく伝えていく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		担当職員と児童発達支援管理責任者と話し合いを持ったうえで、相談支援専門員と共有している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		広報誌を関係機関に毎月配布している。適宜情報共有を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		4		医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援していない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		4		現状、医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等のご利用がない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		必要に応じて支援内容などの情報共有を図っている。	積極的に働きかけ、更なる情報共有など図っていく。文書・電話でのやりとりだけでなく、訪問支援なども行っていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1	必要に応じて支援内容などの情報共有を図っている。	ご家族の意向を伺った上で、学校・施設間での話し合いを進めていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		児童発達支援部会に参加し、助言や研修を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		4		個別療育に特化しており、集団活動はコロナ情勢もあり現状未実施。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4		定期参加している。 児発管が定期的に参加している。	会議内容を他職員にも公開し、共有していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
175	30	4		療育後に保護者様へのフィードバックを実施。フィードバックを大切に、保護者様から家庭の様子など伺い、課題に取り入れている。	常に支援の意図と保護者様のニーズを照らし合わせ、共通理解を促す。
	31	4		研修を受けた職員が、他職員に研修情報を共有している。不定期でセラピストからのお話し会を実施し、家庭でできる支援を提言している。フィードバックの中で、ご家庭でも取り組めることなど提案している。	相談支援やお話会などを通して、具体的な支援を随時行っていく。
	32	4		管理者が契約時に説明を行っている。	
	33	4		契約時・更新時に児童発達支援管理責任者から説明している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		療育後に保護者へのフィードバックを実施している。児発管が日々お声かけを行い、場合によっては相談支援も勧めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4	不定期でセラピストからのお話し会を実施し、家庭でできる支援を提言している。	コロナ禍により、保護者同士が集まる機会を多く設けられていないが、お話し会から保護者同士が話し合える機会を検討していく。 今後、保護者様同士の交流を図り、お互いに意見を伝え合う(一緒に考える)機会を作っていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		保護者とのフィードバック時に相談があった際は、管理者への報告、終礼で経過報告をした上で保護者に解答している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		広報誌で毎月の少人数行事等の発信。法改正や職員体制が変更する際に通知文を保護者に発信し、管理者の方で報告している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4		個別支援計画書会議での必要な資料はファイルに収め、不必要な書類はその場で確認し、処分している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		保護者のニーズに合わせて、療育フィードバックの説明の仕方を話し合い、伝達している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4			
非常時等	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	1	避難訓練マニュアルを1年に2回確認している。	年間計画などを整備、より実践的訓練が実施できるようにする。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1		次回、避難訓練を2021年7月に実施予定。書面や各自の確認でとどまっているため、定期的に実践的な訓練を行う必要がある。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		アセスメントシートに記入し、共有している。あらかじめ保護者様から情報提供していただき、各自書類などで確	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		アセスメントシートに情報共有している。	ハウスダストアレルギーのお子様へ配慮し、空気清浄機やエアコンを含めて清掃をこまめに行う。禁忌事項など全職員で確認し合う機会を設ける。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の 対 応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		毎月の定例会議で共有している。 定例会議で報告し合っている。	職員間でのヒヤリハットに繋がる線引きを統一化し、事例から環境調整を図っていく。ヒヤリハットが起きた場合、各自で報告書に記入し、改善点など話し合う機会を設けていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		新任職員研修で実施。	定期的な虐待防止チェックリストを記入していく。 お子様への対応など、職員間でお互いに評価し合う機会を設ける。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。